

致し異体同心奮勵努力以て四海皈妙の聖業を扶翼すべきなり。

祖の御威徳

井上 惠 妙

建國茲に二千五百有餘年此間英雄豪傑の士は雲の如く也而も其の中多くは劔を以て天下に稱せんとする者多かりき、彼の宗教界の英雄僧にては弘法親鸞法然等の高僧在りと雖も所謂天下の英雄僧に至つては僅に聖祖一人ある耳、誰一人として宗祖に伍す者あらんや。

彼の一切衆生を救濟せんが爲建長五年四月二十八日始めて宗旨建立し給ふ時に聖祖御年三十有二歳、之日蓮が身を以て法華經の爲に奮闘せんと發誓し給ふ宗教改革の宣言なりき。之と同時に折伏逆化の旗を東海に上げ給ふ。猶多怨疾况滅度後の金言虚しからず、三類の強敵盛に刀杖瓦石の難は言はずもあれ、或は東條の難、伊東の災、龍口の厄

佐渡の雪、あらゆる人生の辛酸を嘗め極度の逆境に反抗したりき。

嗚呼宗祖聖人は安房東條の片海に生れ觸も荒き聖陀の襦袢の中に育ち日本をして世界に覇たらしめんとの向上心は豪も社會の容る所とあらず、遂に衆俗の怨忌を受け弘安五年の非滅を現はし給ふ迄、六十一の全生涯の逆境ならざるは無く、迫害ならざるは無かりき、其の六十の老齡に至りても寒雪に苦しめられき、而も宗祖の大覺心は他事も無く救世の大悲願即折伏の御弘通かりき。

吾々は宿福深厚にして難遭の大法に遭ひ奉り加之御門下たるを得たりしは何たる幸福ぞや、宣しく正暇斷民克己奮勵して他日宗家の有用の材となり、二陣三陣續いて聖祖の大慈大悲に酬ひ奉り他日閻浮同歸の基を期する耳。南無妙法蓮華經！

